

レジデントのためのビジネススキル・マナー

医師として成功の一步を踏み出す仕事術 55

松尾 貴公 著

＜書評者＞ 野木 真将（亀田総合病院総合内科部長/クイーンズメディカルセンターホスピタリスト部門長/ハワイ大准教授・内科学）

本書は、医療の現場で働く医師が公私にわたって日常的に直面するさまざまな状況において必要なビジネススキルやマナーを詳しく解説しています。以下に、本書を読んで特に印象に残ったポイントを紹介します。

まず、敬語の使い方は医療現場で非常に重要ですが、本書の「上下逆転敬語」（p.30）の章は特に参考になりました。日常の業務で間違いやすいポイントを具体的に解説しており、私自身も気を付けなければと感じました。また、医療従事者としての院内での行動は常に見られているという点も印象的でした。これは、私が勤務するハワイの病院でもよく「on-stage, off-stage」として注意喚起されるポイントです。患者や同僚に対する態度はプロフェッショナリズムを保つために重要であると再認識しました。

さらに、院内コミュニケーションには Teams や Slack, LINE などのテキストが多用されていますが、学会や他施設との連絡には依然として E メールが重要です。本書のメール作成や診療情報提供書作成のテクニックは、効果的なコミュニケーションを図るために

非常に役立ちました。経験を積むにつれ、周囲に尋ねにくくなるお看取りの際の適切な言動やフレーズもまとめられており、特に若手医師にとって貴重な情報です。

一般的なマナーについても、本書は非常に詳しく解説しています。祝儀袋やお香典の用意の仕方など、社会人として知っておくべき重要なポイントが網羅されており、これらの知識は医療現場に限らず日常生活でも役立ちます。また、個人的に面白かったのは、アンガーマネジメントの章（p.197）です。内容が非常に実践的で、時には家庭内でも応用できると感じました。冗談ですが、わが家の 6 歳児にも読ませたいと思ったほどです。

他にも、時間管理術、質問力、クレーム対応力、教えられ上手など、いわゆるソフトスキルが満載です。これらは大学では教えられませんが、臨床現場では潤滑油のように役立ちます。「暗記力」だけでは大学までしか通用せず、社会人になってから信頼を得てキャリアアップするためや、新しいプロジェクトを立ち上げて実現するリーダーの特徴は、このソフトスキルの充実にかかっていると感じました。

本書全体の構成は簡潔で読みやすく、一気に読破することができました。各章が短く、具体例を交えた解説がわかりやすさを引き立てています。さらに、SBAR, HCAHPS, エレベーターピッチ、グラウンディング、コーピングマントラ、ストップシンキング、ブルーオーシャンなどの用語になじみがない医師は、ぜひとも本書を読むべきです。これらの用語の理解は、ビジネスシーンだけでなく医療現場でも役立ちます。

最後に、私がかつて著者に勧めたクリーブランドクリニックの YouTube 動画（p.58）が本書に取り上げられていたのは非常にうれしかったです。この点からも、著者の細やかな配慮と読者への共感が伝わってきました。総じて、本書は、医師としてのプロフェッショナリズムを高めるために必読の一冊です。

● A5 頁 224 2024 年 3 月

定価：2,970 円

（本体 2,700 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04795-1]

医学書院刊